

		A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学
<b>(1)課題解決型インターンシップを実施すること</b>		○ 課題解決型インターンシップによりECO-TOPの魅力向上させることは賛成	△ 課題解決型インターンシップによりディスカッションだけに陥るようなことは避けたい。	△ 課題解決型インターンシップを実施することにより、途中でECO-TOPのインターンが変わってしまうことには抵抗がある。	○ 課題解決型インターンシップにより、魅力を向上すれば、認定大学も増えるため良い。	○ 今回のインターンシップ・トライアル受入企業はどれも魅力的で良い。	○ 多様な意見をぶつけ合って、解を模索するという経験は学生にとって有益	-
<b>(2)現場重視プログラムを柔軟性のある内容にすること</b>		○	×	△	-	×	△	-
①インターンシップで現場体験を必須としない			インターンシップを通じてフィールドワークを学んでいるという認識	ECO-TOPプログラムの敷居を下げるというよりも、魅力を向上（資格化等）して欲しい。		実際の現場を離れて、座学中心になることは、ECO-TOPのインターンシップではない。	一長一短の面がある。	
②安全管理救急救命の必修科目としない		○	○	-	○	○	-	○
		教員としては助かるが、学生の負担軽減ということだけでは反対	負担の大きい大学がある場合は、必修科目外としても問題ない。ただし、B大学では人気講義		大学の負担軽減により認定大学が増えると良い。	必修科目から外しても良いが、E大学にとっては安全管理救急救命が必修科目であることは大きな負担でない。		
<b>(3)インターンシップに伴う大学生の負担軽減措置</b>		△	○	×	○	○	-	-
①インターンシップ要件緩和（4単位→2単位）		他の認定大学がやむを得ない状況であれば緩和も容認する。		これまで輩出してきた修了生の修了要件と一貫性がなくなる。	要件緩和はありがたいが、海外等に行くインターンを制度内に組み入れても良いように思う。			
②3分野インターンシップ→2分野で可とする		×	○	×	△	△	-	-
		魅力的なプログラムを受講する上で負担はあってしかるべきであるため、2分野にすることは反対。2分野にするのであっても、せめて各分野の情報を共有するような仕組みが必要	3分野の中身は近年近づいてきているので賛成	2分野で良しとするよりも、行政枠の確保に苦労しているのであれば、行政枠を拡大した方が良い。	2分野で良いとすると、3分野全体を補完するような仕組みが必要	3分野のインターンは、やって良かったという学生も多いが、負担に感じている面もある。		
<b>(4)まとめ、終了判定を行う科目の廃止</b>		-	△	-	○	○	○	○
			まとめ科目は大学祭で発表するため、大変盛り上がるし、ECO-TOPプログラムの宣伝にもつながっている。		3年時に単位が満たされるような制度は、就活に使えるのでありがたい。	早い段階で修了できれば就職活動に使えるというのはそのとおり	3年で修了認定されると就活に使用できるので良い。	
<b>(5)カリキュラム全体の単位数の見直し</b>		-	○	×	○	-	-	-
			負担軽減は良いこと	これまで輩出してきた修了生と認定の単位数が異なることになるので、対応が必要	大学の負担軽減につながることで良い。			
<b>(6)その他</b>								
①指定管理者のインターンでの位置づけ		行政外	行政枠	行政枠	指定管理の性質による	-	-	-
②履修生の獲得増のための意見		要件を緩和してまで履修生を増やさなければいけないのか。	学生がとっかかりやすいような副題等をつけて欲しい。	資格、能力認定等をしてほしい（東京都の入札の加点要件とする等）。卒業後のフォローアップがない。		学生側にとってのメリットを何か付与できると良い	他大学の学生と交流できる機会をメリットにできないか。	
③その他意見		負担があっても良いので、制度としての魅力を高めていきたい。						